

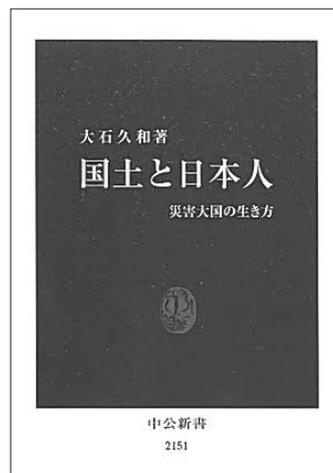
建設技術者のための この一冊

月刊「建設」では2020年3月号より新コーナーとして「建設技術者のためのこの一冊」の連載を開始しました。新旧の学術図書、隋筆、小説等を紹介します。会員の皆様の自己啓発、幅広い見識の形成等にお役立てください。

国土と日本人 災害大国の生き方

著者／編集：大石 久和
発刊：中央公論新社
定価：840円（税別）

増刷決定



2012年に初版が出版された本書が、この度、データを更新して増刷されることとなった。

国土の実情と国土整備の実態は、過去や世界との比較のなかで理解してこそ真の理解となる。

本書では、縄文時代に始まり、戦後復興、経済成長を経て、現代に至るまで、日本人がどのように国土に働きかけてきたのか、歴史的経緯を捉えることができる。

また、国土の主要部分が4島に分かれている、国土の形状が細長く扁平である、脊梁山脈が縦貫し河川が急流である、平野が少なく沖積平野の軟弱な地盤に都市が形成されている、台風の通り道にある、プレートが集中し地震や津波の危険にさらされている、などの自然的条件。土地の保有などの社会的条件。これらのわが国の特徴が、世界各国との比較を交えて論じられている。

本書の著者、全日本建設技術協会の大石久和会長は、全建の建設技術講習会をはじめ全

国で講演を続け、多くの雑誌や新聞に連載を抱えている。さらに、昨年からはニッポン放送「大石久和のラジオ国土学入門」に毎週出演している。講演やラジオ番組等で述べられるわが国の国土の特徴、課題等が本書に詳しく体系的に書かれている。

本書の初版が出版されたのは、前政権下のインフラにとって厳しい時代であった。しかし、本書で示されている内容は、今も、本質的に変わるものではない。

日本の国土はどのような特徴があるのか。それを理解した上で、海外に伍して豊かな国土を築き上げ、日本人が再び活力を取り戻すために何が必要なのか。インフラの整備や管理に携わる建設技術者がぜひ読んでおきたい一冊である。

主な内容

- 第1章 国土はどう形成されてきたか 「国土」の始まり／国家による国土整備の開始／江戸時代の大開発
- 第2章 日本列島の自然条件—わが国土の実情① 国土のゆがみと複雑さ／歴史をも動かす自然災害
- 第3章 国土の社会条件—わが国土の実情② 土地の保有概念／進まない地籍の確定／土地の細分保有
- 第4章 これまでの国土造り 明治からの国土造り／東アジアの台頭とわが国土の相対的劣化
- 第5章 これからの国土造り 集中度を高める首都圏、コミュニティが崩壊する地方／大災害頻発国に住む覚悟と災害を考えた国土造り
- 終章 人の輝きを国土が支える—「人と国土」の思想